



# なかましんぶん

R元年6月1日 VOL99 小川和代



暑くなってきましたね。感染症の終息宣言がなかなか出せない状況が続いています。初夏は気候の変化もあり体力が落ちる時です。夏の遊びを存分に楽しめるよう体調を整えていく事が今一番の優先事項になっています。ご家庭でも、早めのケアや、無理の無いゆったりとしたリズムで過ごすなど体力温存・増強を心掛けてくださいね！

## 環境を通して行う保育。

乳幼児期は、生活の中で興味や欲求に基づいて自ら周囲の環境に関わるという直接的な体験を通して、心身が大きく育っていく時期である。子どもは、身近な人やものなどありとあらゆる環境からの刺激を受け、経験の中で様々なことを感じたり、新たな気付きを得たりする。そして、充実感や満足感を味わうことで、好奇心や自分から関わろうとする意欲を持ってより主体的に環境と関わるようになる。こうした日々の経験の積み重ねによって、健全な心身が育まれていく。(保育指針解説書より)

保育指針の最も重要な総則に示されているように、環境を通して乳幼児期の子どもの健やかな育ちを支え促していく事が保育園の役割です。

GWの真ただ中にボランティアの保護者の方々、職員、設計士さん、改修に来てくださっていた大工さん達で、保育室の環境をリニューアルしました。(お休みの所ありがとうございました！)GW明けの子ども達の姿は、まさに保育指針に示されているとおり！特に太字の部分は際立って実感できた部分です。ロフトで夢中になって遊んでいる間に得る学びを、もし大人が意図して教えるとなると、相当な努力と運(子どものやりたい！と大人の意図がピッタリマッチしている幸運)が必要です。だからこそ、環境を整えることが豊かな経験と学びの保障になるのだと実感しました。

やっとロフトに登れた3歳児が、降りるのが怖くて大泣き・助けを求め泣き続けること30分くらい。その間に、かいかいしく降り方を教える子、下から心配そうに事の次第を微動だにせず一部始終真剣に見届けている2歳児、部屋のあちらこちらで遊びつつもずっと気にかけているこども達、「私も初めての時泣いたよね〜」「私はおり方を考えてから登った」など保育者に話しかけてくるこども達。その場に居合わせたみんなが、出来る瞬間をそっと見守ります。もう昇り降りをする子にとっては、経験してきたことだからこそ、その時の思いやその先を踏まえ応援しています。2歳児にとっては、この先に自分がたどる道の予習？1人の行動を通して、みんなそれぞれ何かを感じ学んでいきます。この様子をお迎えに来た本人のママも固唾をのんで見守っていました。すぐに助けたい思いを我慢するのはどんなに長い時間を感じたことでしょうか。でも、遂に決心を固め見事に一人で降りることができたのは、待っているママの葛藤と思いが伝わったからこそ。見てるけど、あえて手を出さないことで、ママとともに味わえた達成感ほどに大きかったことでしょうか！助けることよりも深い絆が生まれる瞬間だったように思います。

後日談、その後この子がロフトに近寄っていく姿はしばらく見かけません。(笑)これも学びの上の選択ですね。

## 親子遠足

4.5歳児は海に遠足・他の学年は公園に遠足に行きました。私は海に同行したのですが、「こっちこっち！！カニ！！」「そこ！ほら！！やどかり！！」あっちからもこっちからも、こどもに見せたくてパパやママ達の声が飛び交います。こんな童心に戻った気持ちで海辺に立つのは久しぶりでしょね。大人だけではこんな事象に興味もわかかなかたりして・・・でも、その楽しそうなこと！！そして、こどもに見せたい思いは、自分がこどもの頃に楽しかった嬉しかった思いが心の中に残っているからこそ！！大人たちはせっせと海の生き物を捕獲して、持ってきた入れ物の中に・・・この入れ物の中に生き物が増えていくのを、子ども達は喜び心から楽しんでいました！その思いを胸にこの子たちもやがて親となっていくことでしょう。カレー作りで一息懸命な姿、生き物を見つけ捕獲してくれる姿、こども達の目にパパとママは英雄として見えていたことでしょうか。暑い中、お疲れ様でした。